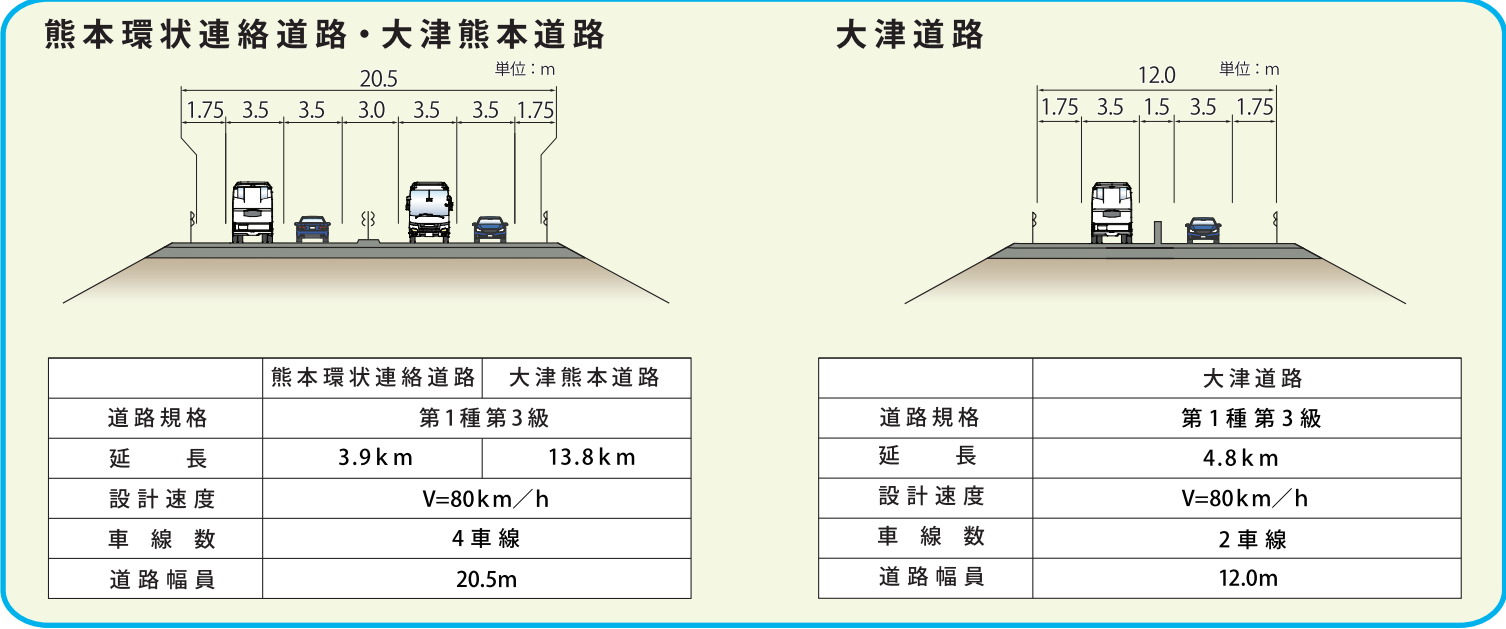
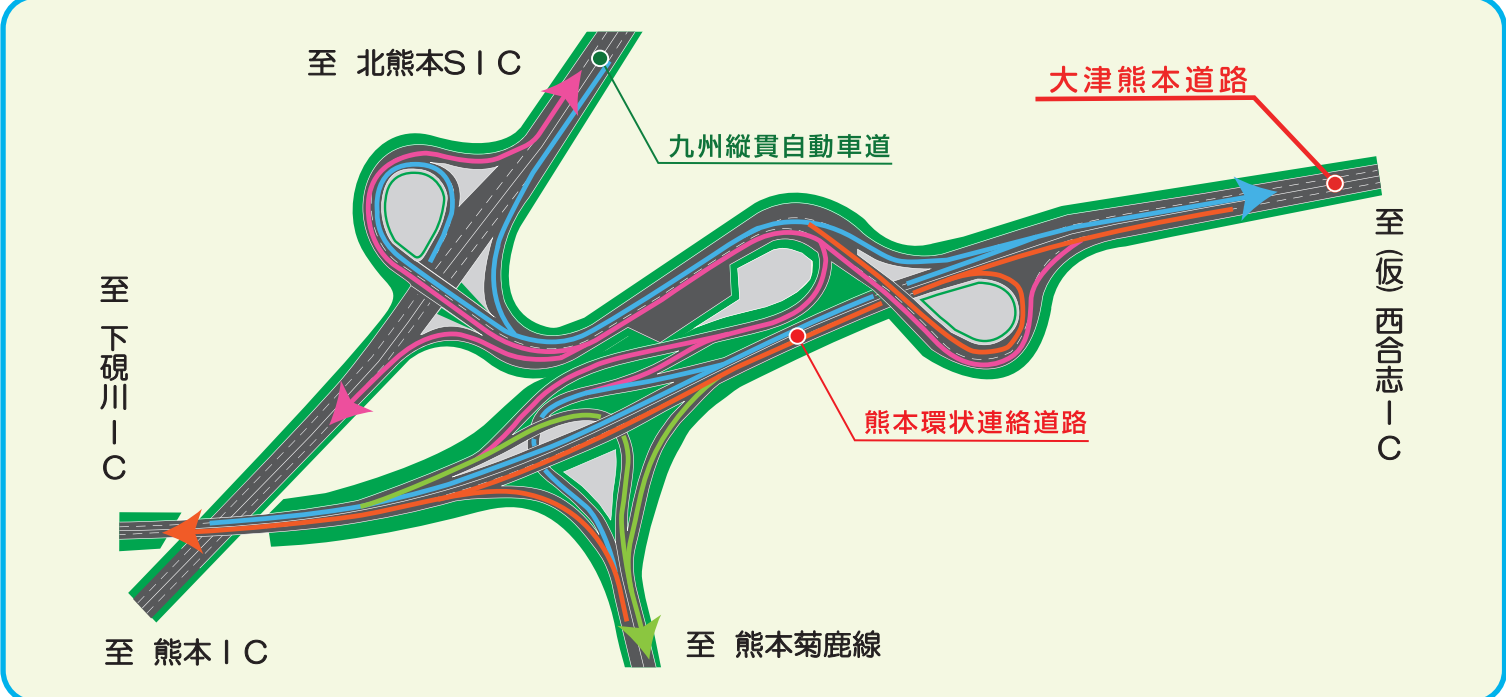


道路規格・標準横断面図等

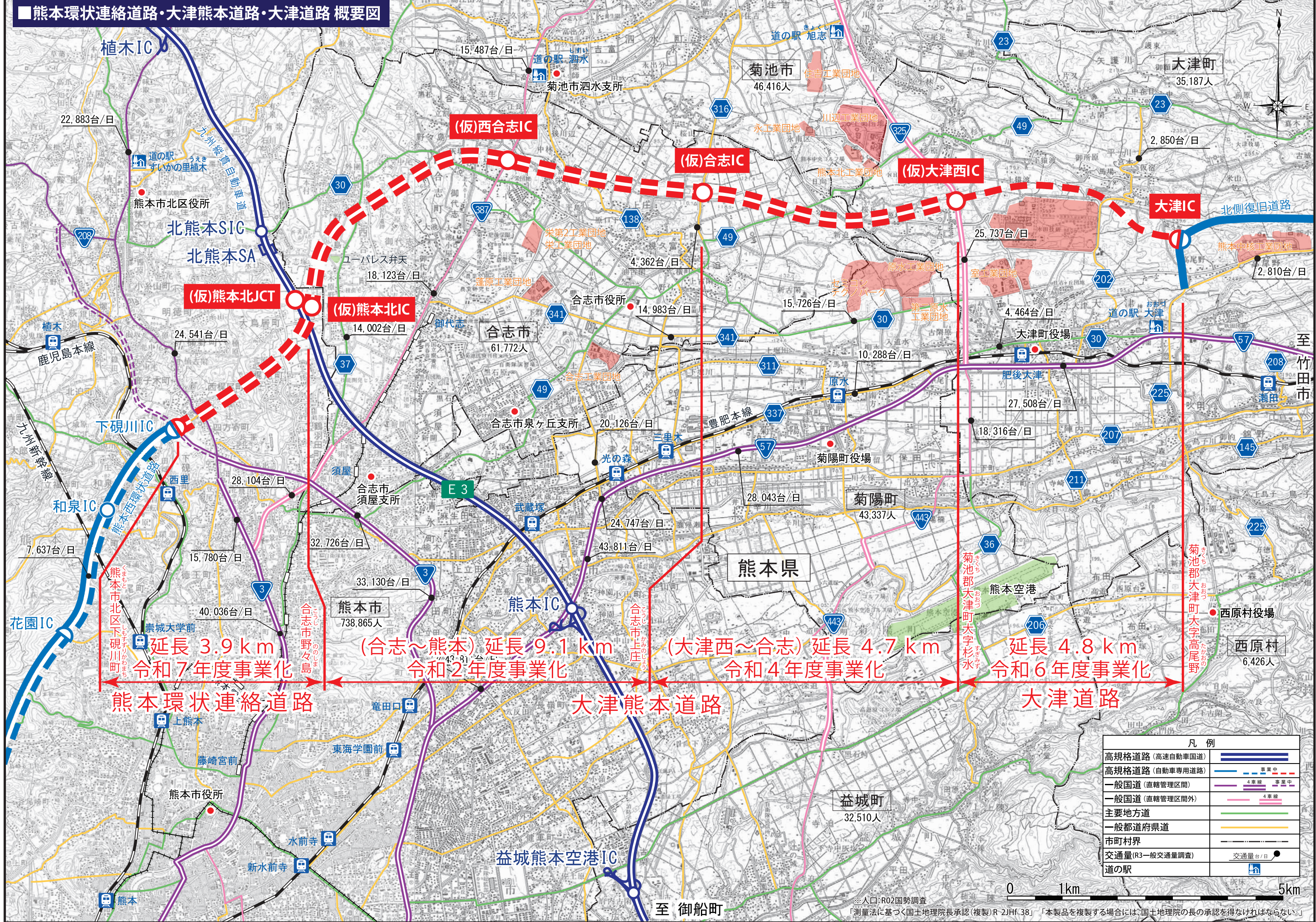


(仮)熊本北JCT・ICイメージ



事業の経緯

	熊本環状連絡道路	大津熊本道路		大津道路
		(合志～熊本)	(大津西～合志)	
都市計画決定	令和6年2月	令和2年1月		
事業化	令和7年度	令和2年度	令和4年度	令和6年度
都市計画変更		令和4年7月	令和6年3月	



古道 豊後(肥後)街道

「道は人と地域を結び 心まで通い合う」

豊後(肥後)街道は、熊本城「札の辻」から大津、阿蘇を超え、大分県鶴崎までの31里(124キロ)。加藤清正公によって整備、江戸時代には参勤交代の道として、政治、経済、文化、軍事、年貢納めの道などの重要なルートとして発展した歴史街道。



A 菊陽杉並木

今

昔

出典：熊本県歴史の道調査・豊後街道

菊陽町は、国道57号とJR豊肥本線がほぼ平行して走る熊本城札の辻から東方約15キロに位置します。途中の二里木の武蔵塚公園には、宮本武蔵像が肥後藩参勤交代の無事を祈る形で建立。その先は、道幅約30mの両端に加藤清正緑の大津街道菊陽杉並木の老木が続きます。街道は勝海舟や坂本龍馬などが往来。周辺には、頼山陽記念碑や鼻ぐり井手、鉄砲衆集落などが見られます。

B 宿場町大津

今

昔

出典：大津町歴史文化資料館

大津町は、札の辻から五里にあたり、最初の参勤交代の宿場町として栄えました。当時、肥後藩には、川尻・高瀬・大津の三箇所に御蔵があり、大津御蔵には俵数約16万俵が納められていました。明治10年の西南戦争時に薩摩軍司令が置かれた大瀬寺、光尊寺石橋、加藤清正公緑の疎水百選の上井手などが見られます。大津宿から緩やかな坂を辿り高野野、新小屋を経て二重峠に至ります。

C 二重峠

二重峠(標高683m)は、古代・中世・近世を通じて、政治・経済・文化・軍事・年貢納めの重要なルートでした。古くは平安中期の古代官道、参勤交代の道、西南戦争などに使われました。神話に登場する地名に健甕龍命(月の名)が阿蘇カルデラ内の湖水を排水して美田にするため、外輪を蹴破ろうとした二重(ふたえ)や住生岳から弓で石を的に練習した的石(まといし)が今でも残っています。

D 滝室坂

滝室坂は、熊本から滝室坂までは十三里に位置し、加藤清正公(熊本初代藩主)が軍事と交通の重要なルートとして整備。その後、細川藩が参勤交代に利用した豊後街道の最大の難所でした。宿場町坂梨から北外輪山に至る標高差約200m、距離にして3キロの急坂です。この坂を人々から「大坂に坂なし、坂梨に坂有り」と呼ばれていました。また、伊能忠敬も日本地図作成に坂梨宿に止宿しました。

E 境ノ松坂石畳

境ノ松坂石畳は、参勤交代のため整備された、肥後と豊後を結ぶ豊前街道の一部です。鬱蒼とした杉林に囲まれて平均幅約3m、長さ200mの古い石畳の道です。途中鋭角のカーブがあり、大分県境手前、熊本県最後の難関です。石畳をのぼりつめると、かつて肥後と豊後の境に植えられた境の松がありました。開けた視界の先は豊後の国。また、峠の茶屋もありました。

F 今市宿の石畳

今市宿の石畳は、江戸時代の参勤交代路です。石畳は、幅約2メートル、延長660メートルに及びます。当時は宿場があり、上町と下町に分かれていました。途中には、「信玄曲り」と呼ばれるクランク状の曲がり角が設けられ、宿場全体を見通せないよう、防備のための構えがありました。また、曲がり角には火除鼓としての竹林が作られて防火にも役立っていました。